

東アジア問題に関する世界経済フォーラム(World Economic Forum on Asia)

平成 19 年 6 月 25 日 加納時男

題記会議が6月24 - 25日にシンガポールで開かれたところ、特記事項次の通り。

1. ASEAN の主体的参加。

ASEAN が結成 40 周年を迎えることもあり、ASEAN の現議長のアロヨ比大統領、次期議長のリーシャンロン星首相始め、ASEAN からの政・財界幹部の参加が目立った。(星;シンガポール)

アロヨ氏は「世界は全体として平和で安定した時代を迎えている。が、所得格差、テロリズム、気候変動などの問題があり、リーダーシップが問われている。最大の国 米は中東、特にイラクに没頭しており政治的空白状態。中・印・日の役割が大に。日は ODA でリーダーシップを発揮してきた。中・印は巨大国になるだけに責任も大きい。中・印・日の東アジアサミットへの参加は重要。ただし、運転席には ASEAN が座る。東アジアの経済の発展と政治の安定を目指したい」と語った。

星のヨンブーン外相は、都市化を取り上げ「都市化が進む。都市には政治、制度、宗教などの問題が凝縮される。都市は希望の星にも成りうるし、暴力・犯罪の巣にも成りうる。問われるのはリーダーシップだ」と述べた。

ASEAN のオン・ケンヨン事務局長は、「ASEAN は Talk Club と言われてきた。40 周年経っても憲章がない。憲章を作って責任制、透明性、予測可能性を高め ASEAN 共同体を作りたい。東アジア協同については ASEAN + 3、+ 6、米の参加など各種の構想があるが、常に ASEAN を中心に据えたい」と強調した。

カルロス・ゴーン氏は「東アジアのリーダーシップをいかにして発揮するかが課題。現状は、各国間に距離がある。共通のアジェンダが大切。気候変動など世界の懸念にどう取り組むか、とかく(東アジアでは)投資と輸出に目が向くが、消費をどう高めるか。アジアでのイノベーションをどう進めるか、自動車では日本、エレクトロニクスでは日・韓だ。企業の企画部門や政府はアタマが立派にできれば良いと思いがち。実施が弱い。政府は P D C A を回していないのでは？」と指摘した。

このほか 参加者から

「アジアが全体として繁栄しているのは事実だが、一方でアフリカのサハラ砂漠以南の所得以下の階層が存在することを看過してはならない」

「経済は国際化しているが 政治は国内化している」

「政治は見えるリスクだけでなく、見えないリスクに目を向けるべき

-- ex テロ、気候変動、鳥インフルエンザ、次世代のリスク」

との発言もあった。

2. 東アジアのエネルギー安全保障

このセッションは 英テレビ・ニュースのアンカーを務めるFBC副社長のジョン・デフテリオス氏を進行役に 5 人の討論リーダー(パネリスト)が議論し、これに参加者が自由に発言するというスタイルで進められた。始めに 5 人が 3 分ずつ一言所信を述べ、これを進行役が取り込んだ上で 彼の思いのままに疑問やテーマを投げる方式で進行した。

5 人とは 米・CSIS のラルフ・コッサ理事長 馬(マレーシア)のイドリス・ジュソー大臣 加納時男 参議院議員 ラジャト・ナグ アジア開銀事務局長 ヒルミ・パニゴロ、モドコ・エネルギーCEO(インドネシア)。

加納は 3 分で次を述べた。

本年 1 月、東アジア 16 カ国(ASEAN + 6)の首脳が集まり、「東アジアのエネルギー安全保障に関するセブ島宣言」を発表。この中で、化石燃料の有限性、燃料油価格の世界的高騰、急激なエネ需要の増大を認識。

私の提言は、この認識をベースに「持続可能性」を政策目的にすること。

何が持続するのか。三つ有る。 経済とエネ資源と環境だ。そのソリューションは脱炭素(De-carbonization) または低炭素社会(Low-carbon society)。

De-carbonization を実現する政策は 4 つ

エネ効率の改善。 省エネ技術の開発と普及。先日のハイリゲンダム G 8 サミットでは、「エネ効率の世界的な改善は、温室効果ガスを減らし、エネ安全保障を高めるための最も早く、安くかつ持続的な道だ」と宣言。

化石エネのクリーンかつ効率的な利用の促進 火力発電の熱効率の大幅な向上、クリーンコール技術、CCS(二酸化炭素・回収・貯留システムの R & D など。

再生可能エネの利用拡大 大気熱(ambient heat)利用のヒートポンプ、バイオエネ、地熱、太陽光、風力、将来に向けた宇宙エネ利用(SSPS)の R & D など

(最後だが最も重要) 原子力エネの平和・安全利用の拡大 これについて G8 宣言では「原子力発電は世界的なエネ安全保障に貢献するとともに、有害な大気汚染を減じ、気候変動への対策に資するものである」と言っている。

以降 いろいろやりとりがあった。

(加納、他は発言者名を非公開とするルールのため、A、B、C・・・で表示)

- A グリーン技術について日本は優れていると聞くが、再生エネのことか。
再生エネ 例 太陽光技術はトップ。しかしグリーン技術は私の提案4つの政策に全部入っている。省エネ技術、化石の発電効率、原子力 全部グリーン技術だ。
- B 具体例を挙げられるか。
製鉄で言えば 炉頂圧発電 (Top turbine)、コークス乾式消火装置 (CDQ)、連続 casting 設備 (Continuous Casting)、家庭やビル用冷暖房・給湯のための空気熱源ヒートポンプー世界のトップレベルだ。原子力の安全技術もそうだ。
- C セブ宣言には2つの意味あり。1つは ASEAN + 6 の参加、2つは エネ効率の改善を強調したこと。
- D 中・印のエネに3つの特徴あり。需要増が大かつ急。エネ利用が非効率。対外依存 (輸入増)
- E 資源獲得競争かグリーン技術の普及か 2つの道がある。
- A 資源ナショナリズムが顕著に。米のエネ政策は石油の中東依存のリスク回避に主眼があるのか？

数字でみると少し違う。一次エネの石油依存度;日 50%,米 40% 石油の輸入依存度;日 100% 米 60% 輸入の中東依存度;日 90% 米 25% これらを掛け合わせると一次エネの中東石油依存度は 日 45% 米 6% となる。米にとって 中東のみならず、中南米やアフリカの油田、ガス井の国有化、ナショナリズムがリスクではないか。

- C そういえば、中がアフリカ48カ国首脳を北京に招いた。中は インフラ投資や武器供与とエネ資源獲得を取引にしている。

F 加納氏は原子力がソリューションになると言ったが、資源ナショナリズムは化石燃料だけでなくウランにもあるはずだ。原子力を世界で進めるとウランも足りなくなるのでソリューションにならないのでは という疑問に答えられるか？

良い質問だ(笑い)。使い捨てにすれば 化石と同じ運命に。ウランの特性は 使用済み燃料の化学処理によりまだ使えるウランやプルトニウムをリサイクルできることだ。再処理といっている。

G 世界で進んでいないのでは？

日本はFBRで先頭を走っている。フランスが進んでいる。米も方針を変え、再処理を再開する。露も進んでいる。中は取り組んでいる。

F 廃棄物の処理ができない原子力はソリューションにならない。NIMBYという。

確かにNIMBYと言われてきた。が、状況は変わっている。Please in my backyard PIMBYも現れた。(HLWでのオルキルオト、軍事用TRUでのカールズバッド、LLWでの韓国・慶州での逆転を説明)

C 原子力の問題は核兵器の拡散の懸念だ。これに対して 有効な取り組みが無い以上、原子力を拡大するには疑問がある。

F 原子力をCDMの対象にするのは 核不拡散の立場から反対だ。

C 原子力は環境に優しい。当然対象にすべき。賛成だ。

私は「平和利用」を強調している。核兵器への転用リスクがあることを踏まえ、IAEAの場で 核兵器の拡散防止と平和利用の促進を同時に実現する方策を議論している。これは 不拡散誓約国に燃料供給を保障すると同時に燃料加工、サイクル事業の国際管理システムをつくるものだ。例えばエルバラダイ構想、6カ国提案、日本提案、GNEP構想(米)など。平和利用は可能だ。GHG排出抑制に効果のある原子力を 核不拡散に配慮しつつCDMの対象にするのは理がある。

これ以外のセッションの討議については 略。

以上 速報です